



弘大農学生命科学部 同窓会会報

第41号

令和5年5月 発行
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL 0172-36-2111
FAX 0172-39-3750
振替 02340-7-564
印刷 (株) 笹 軽 印刷



果肉まで赤いりんご「紅の夢」は
花弁が濃いピンク色



岩木山を見晴らせるリンゴ畑



黄色チューリップ



ごあいさつ

同窓会長 高谷 清孝

同窓生の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、東信行学部長をはじめ学部関係者、学部後援会等の皆様には、同窓会の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知のように、農学生命科学部は、昭和30年7月に、前身である農学部が当時の文理学部から独立する形で創設され、その後、平成9年度に、理学部生物学科が農学部へ移設されたことに伴い農学生命科学部へと改称され、さらに、平成28年度からは、現在の5学科に再編成されて今日に至っています。また、卒業生は8,600名を超え、青森県内はもとより各地において様々な分野で活躍されておられます。

このような中で、同窓会は、会員相互の親睦を図るとともに学部の発展に寄与することを目的に、農学部が創設された翌年（昭和31年）5月に設立され、主に同窓会報の発行や学部構内整備への協賛、卒業祝賀会の共催などの事業に取り組んでいます。

現在、弘前大学においては、「世界に発信し、地域と共に創造する」をスローガンに掲げ、その下で農学生命科学部は、地域や時代の要請に応じて食産業に貢献できる人材や、国際的な視野を持って活躍できる人材等の育成に取り組んでおられます。

我が国の農業は、従事者が高齢化等に伴い減少傾向にある一方で、新規就農者の少ない状況が続いており、担い手や労働力の確保が最大の課題と

なっています。また、世界的には、人口増加に伴う食糧不足が、今後、大きな問題となっていくものと思われまます。

農学生命科学部には、こうした課題等にもしっかりと向き合いながら、弘前大学の基本理念に沿って、これからも我が国の農業をはじめ地域産業の発展に貢献する人材の育成に尽力していただくことをご期待いたします。

長らく続いてきたコロナウイルス感染症の影響も、ここにきてようやく落ち着きを見せており、感染拡大に伴い中止等を余儀なくされていたイベントなどは、数年ぶりにコロナ前の形に戻りつつあります。

同窓会としましては、こうした動きなども踏まえながら、可能な範囲で学部や学生の支援、同窓会活動の活性化などに取り組んで参りますので、皆様には、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、皆様からのご意見や支部同窓会・会員の活動状況などの情報提供につきましても、積極的に事務局へお寄せくださいますようお願いいたします。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





これからの大学を考えるとき

農学生命科学部長 東 信 行

令和4年4月より農学生命科学部長を拝命致しました東（アズマ）と申します。就任後1年がたち、遅ればせながらですがご挨拶をさせていただきます。

同窓会の皆様並びに関係者の皆さまには、同窓会の運営にご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

ここ数年はこのような冒頭のご挨拶では、必ずコロナ禍のことを話題にしてきました。終息はまだ先になるかもしれませんが、新型コロナウイルスとの付き合い方が変わる年にはなりそうな兆しが見えてきた今春です。卒業生との交歓会はまだ見送らざるを得ませんでした。卒業・修了式、入学式などはほぼ通常通りおこなうことができる状況になってきました。まだまだ油断はできないものの、この3年間培ってきた経験で「コロナと共存」が可能になれば、コロナ前とは異なる新たな通常運転の仕方が見えてくる年になりそうです。しかしながら、昨年からのロシアによるウクライナ侵攻は終わる気配がなく、様々な側面で我が国の生活にも影響しており、特に学生にとっては食料品や光熱費などの高騰が明らかに日々の生活を圧迫しているように見えます。

大学のおかれている状況も、様々な危機感を感じる現状なのですが、特に危惧されるのが加速している少子化であり、近い将来の大学の在り方を大きく変える可能性があります。2022年の出生数はついに80万人を割り2016年の100万人割れからわずか6年で20%もの減少をしています。令和4年度の高校卒業年齢の出生数と比較すると約

3割の減少となっています。この現象は、もちろん日本そのものの根幹を揺るがす事態になりつつあり、中長期的にも国民的議論が必要な大問題である一方で、待ったなしで真っ先に影響を受けるのは子供たちを教育する現場になるはずで、弘前大学もその渦中にあると言えるでしょう。令和3年入学者の入学試験倍率は、コロナ禍の影響もありこれまでになく低倍率で、大学関係者の間に強い緊張感が走りました。その後の2年は比較的穏やかな状態ですが、今後顕在化する少子化の影響は間違いなく弘前大学にも襲い掛かります。本格的な危機に陥る前に今やるべきことを速やかに進め、ピンチをチャンスに変えるタイミングなのだと考えています。

大学の中にいる私たちにできることは、より良い教育の提供と質の高い研究の推進、そして社会との協働のそれぞれを磨き上げてゆくこと、さらにそれらを発信し知っていただくことしかありません。魅力ある大学・学部になるよう、必要な改革や改善を進めつつ、中にいる学生や教職員が笑顔で過ごせるような環境を目指し、今まで以上に社会に歓迎される卒業生を送り出したいと思いません。

同窓会の皆様や関係された皆様のご支援が、これまで以上に必要な時代になります。いま一度現在の弘前大学農学生命科学部に目をむけて頂き、頑張っているなあと感じていただければ幸いです。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



研究室だより

分子生命科学科 森田英嗣

分子生命科学科細胞生物学分野の紹介をします。この研究室は、旧理学部生物学科から移られた杉山一夫先生、その後着任された菊池英明先生より受け継がれてきました。杉山先生は、マウスに感染するベータコロナウイルスの研究、菊池先生は、ダイオキシン核内ホルモン受容体の研究、そして私は、杉山先生の流れを引き継ぎ、再び動物ウイルスを材料に研究を進めています。2023年現在、着任から9年目を迎え、博士研究員1名、岩手連大博士課程2名、修士課程5名、学部学生7名、技術補佐員2名の計18名の大所帯の研究室を運営しています。

私たちの研究室では、ウイルスの細胞内での増殖の仕組み、その中でも特に感染後期課程のウイルス粒子形成の分子機構に焦点を当てた基礎研究を進めています。また、粒子形成を阻害する物質の検索と抗ウイルス薬シード化合物開発、さらに、人工的なウイルス粒子合成や改変によるワクチン開発なども国内ワクチンメーカーの援助を受けながら進めています。これら基礎医学的な研究に加え、農学との連携を目指した応用研究も同時に進めています。抗感染症活性に焦点を当てた地域農産物・食品の機能性研究、さらには、ベンサミアナタバコなどの植物を用いたワクチン抗原の産生系確立など、次世代の農業への貢献を目指して日々研究に取り組んでいます。

このように動物ウイルスの研究を進めていることもあり、今回の新型コロナウイルスパンデミックにより私たちの研究は大きな影響を受けました。それは、2020年3月に、日本医療研究開発機構(AMED)からワクチン開発に対する資金援助が決まったことからはじまります。これまで私たちが進めていた「タンパク質ナノ粒子ワクチン」が評価され、

それを利用した新しいコロナワクチンを作れないか？というものでした。当時、ヨーロッパでは多くの死者が出ており、社会がパニックに陥っていた時期です。不肖、地方大学の弱小ラボではありますが、ラボ一丸となって新型コロナウイルスワクチン開発に取り組むことになりました。そのとき、学生みんなに「自分の研究で人の命を救えるかも？」という使命感が少なからず芽生えていたのを感じております。このような使命感のもと真剣に研究に取り組んだことは、彼らにとっても記憶に残る貴重な経験になったのではないのでしょうか。ワクチン開発に続き、ウイルス感染を検出する方法の開発、翌年には、ウイルス粒子形成を阻害する化合物の開発でも資金援助を受けることが決まりました。このように今では、新型コロナウイルス感染対策に資する様々な研究を同時に進めています。最近になってようやく、社会の新型コロナウイルス感染に対する捉え方も落ち着いてきました。しかし、近い将来別のパンデミックが生じることが予想されます。その時にまた私たちの基礎研究・応用研究が役立つように、そして、これら感染症対策に貢献できるような人材の育成に今後も取り組んで参ります。



分子生命科学科コロバ棟研究室合同バーベキュー。深浦岡崎海岸にて。

令和4年度卒業生・修了生の卒業式ならびに就職・進学先

令和5年3月23日に、令和4年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は214名、大学院修士課程修了生は38名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は8,687名、研究科修了生は1,333名となった。

昨年は卒業・修了生だけが出席する学位授与式であったが、昨今の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、今年は保護者の出席も認められた。式典の様子はオンラインでライブ配信された。卒業・修了生には学部に戻り学位記が手渡されたが、全体での記念写真撮影や祝賀会兼同窓会歓迎会等の催しは、残念ながら全て中止となった。卒業生にとっては、少し雰囲気異なるこの巣立ちの日がより記憶に残るものであることを期待するとともに、今後のご活躍を祈念する。



本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。（令和5年3月31日現在）

生物学科

たかだ歯科クリニック、高知県庁、札幌市職員、青森県職員、東日本旅客鉄道（株）、北海道職員、（株）セコマ、（株）ユーベック、小野田ケミコ（株）、青森県りんごジュース（株）、（株）森林テクニクス、日本アルコン（株）、弘前大学大学院（20）、

京都大学大学院、総合研究大学院大学、東京農工大学大学院

分子生命科学科

エプソンアトミックス（株）、おいらせ町職員、岩手県職員、国分東北（株）、国立大学法人北海道

大学、青森県職員、地方独立行政法人青森県産業技術センター、調布市職員、函館市亀田農業協同組合、福島県職員、防衛相・自衛隊 陸上自衛隊、北ガスジェネックス(株)、スターバックスコーヒージャパン(株)、マンパワーグループ(株)、階上キューピー(株)、(株)マーケットエンタープライズ、(株)クスリのアオキ、佐藤(株)、(株)日本コンピュータサイエンス、(株)五千尺、(株)タムラ製作所、ブライエッジ(株)、住商アグリビジネス(株)、(株)オープンハウスグループ、弘前大学大学院(10)、岐阜大学大学院(2)、京都大学大学院、北海道大学大学院、名古屋大学大学院

食料資源学科

青森県職員(3)、札幌市職員(2)、ホクレン農業協同組合連合会(2)、日新製薬(株)、(株)ウィルオブ・ワーク、(株)ヤマザキ、(株)北海道銀行、もりやま園(株)、阿保哲税理士事務所、厚生労働省 食品衛生監視員、厚生労働省 青森労働局、弘前市職員、全国農業協同組合連合会、地方独立行政法人青森県産業技術センター、鳥居薬品(株)、独立行政法人家畜改良センター、日本ハム(株)、農林水産省 東北農政局、白石食品工業(株)、函館税関、福島県警察、北海道信用農業協同組合連合会、(株)二葉屋、アルファ1グループ、(株)マイナビ、青森合同青果(株)、(株)ノースイ、紅屋商事(株)、Rejet(株)、(株)六花亭、(株)サトシ農園、カバヤ食品(株)、(株)シイエヌエス、日本ホワイトファーム(株)、(株)スタッフサービス、アイアグリ(株)、アドバンテック(株)、弘前大学大学院(13)、東北大学大学院

国際園芸農学科

北海道職員(2)、全国農業協同組合連合会(2)、DCM(株)(2)、(株)コーンズ・エージー(株)EP総合、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)オープンハウス、(株)ニトリ、一般社団法人北海道中小企業家同友会、熊本市農業協同組合、厚生労働省 北海道労働局、弘前市職員、国立大学法人山形大学、青森県職員、独立行政法人家畜改良センター、函館市職員、北海道空港(株)、青森合同青果(株)、リリカラ(株)、エスフーズ(株)、(株)日本農業新聞、ダイレックス(株)、(株)

ダイキアクシス、(株)みちのくクボタ、(株)ネクシィーズ、(株)デイリーはやしや、(株)モスフードサービス、伊藤ハムデイリー(株)、全農パールライス(株)、(株)セリア、農林水産省、弘前大学大学院(6)、千葉大学大学院

地域環境工学科

青森県職員(3)、宮城県職員(2)、札幌市職員(2)、(株)農土コンサル、(株)富永調査事務所、おいらせ町職員、国土交通省 北海道開発局、山形県職員、千歳市職員、東京地下鉄(株)、蓮田市職員、(株)セコマ、和光技研(株)、(株)ワイ・シー・イー、日本工営(株)、(株)ネクスコ・エンジニアリング東北、東北電力(株)、(株)ピーシーレールウェイコンサルタント、東亜建設工業(株)、弘前大学大学院(5)

<大学院農学生命科学研究科修了生>

生物学コース

農林水産省 林野庁(2)、(株)イートアンドフーズ、(株)ゲシャリーコーヒー、一般社団法人静岡県産業環境センター、札幌市公立学校、青森県職員、東京システムハウス(株)

分子生命科学コース

ニプロ(株)(5)、ホクレン肥料(株)(2)、GEヘルスケア・ジャパン(株)、SBIバイオテック(株)、アドバンテック(株)、ニプロファーマ(株)、地方独立行政法人青森県産業技術センター、日本乳化剤(株)、武田薬品工業(株)岩手大学大学院(2)、岐阜大学大学院

食料資源学コース

(株)アグリ総研、岩手県職員、全国農業協同組合連合会、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、藤本化学薬品(株)

国際園芸農学コース

独立行政法人家畜改良センター

地域環境工学コース

日本工営(株)、岩手大学大学院

新任教員の自己紹介



石本 雄大 准教授 (国際園芸農学科)

2022年7月に農学生命科学部に着任しました石本雄大と申します。国際園芸農学科にて国際フードビジネス分野を担当いたします。これまではアフリカ乾燥地や青森県の農

村部において食農をめぐる問題や地域振興を研究してきました。世界各地の農林水産業の現状や課題を議論しつつ、青森県だからこそできる教育・研究に全力で取り組む所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



橋本 洸哉 助教 (生物学科)

初めまして。2023年2月1日に弘前大学農学生命科学部・生物学科に助教として着任しました、橋本洸哉と申します。植物を取り巻く生物間相互作用と、それが生態系にもたらす波及効果について研究しています。また、

最近では温暖化実験による気候変動の影響評価も行っています。着任後は、弘前の寒冷な気候を活かしたフィールド研究を進めたいと思います。未熟ではございますが、学部や地域への貢献を目指して参りますので、皆さま何卒よろしくお願いいたします。

教職員人事

退職 (辞職) 令和5年2月28日

池田 紘士 (いけだ ひろし)

准教授 (生物学科)

(転出先: 東京大学 准教授)

山尾 僚 (やまお あきら)

准教授 (生物学科)

(転出先: 京都大学 教授)

採用 (新任)

令和4年7月1日

石本 雄大 (いしもと ゆうだい)

准教授 (国際園芸農学科)

令和5年2月1日

橋本 洸哉 (はしもと こうや)

助教 (生物学科)

昇任

令和4年4月1日

柏木 明子 (かしわぎ あきこ)

教授 (食料資源学科)

田中 紀充 (たなか のりみつ)

准教授 (国際園芸農学科)

中村 剛之 (なかむら たけゆき)

教授 (白神自然環境研究センター)

山岸 洋貴 (やまぎし ひろき)

准教授 (白神自然環境センター)

令和4年8月1日

田中 克典 (たなか かつのり)

准教授 (食料資源学科)

鄒 青穎 (ツォウ チンイン)

講師 (地域環境工学科)

令和5年1月1日

叶 旭君 (ヨウ キョククン)

教授 (国際園芸農学科)

会費納入と住所通知のお願い

同窓会費は、同封致しました「同窓会費納入のお願い」に貼付の振込用紙でお納めくださいますようお願い致します。

転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報ください。

同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

松崎 正敏 電話 0172-39-3804 E-mail mma@hirosaki-u.ac.jp

栗田 大輔 電話 0172-39-3592 E-mail dkurita@hirosaki-u.ac.jp

成田 拓未 電話 0172-39-3622 E-mail tnarita@hirosaki-u.ac.jp

新企画

「弘大酒を囲んで同窓会！」

コロナウイルスの感染拡大で自粛モードが続いております。なかなか集まって同窓会を行える状況ではありませんが、きっとまた皆さんでお酒を囲める日が来ると思います。そして、同窓会や出身研究室の仲間との飲み会などを企画する時が来ましたら、是非、同窓会事務局にご一報ください。会の様子の簡単なお報告やお写真を会報誌にご紹介いただくことを前提に、弘大酒をお送りいたします。参加人数が5名様以上の時は1本、10名様以上の時は2本（最大2本まで）を幹事様宛に送らせていただきます。締め切りは設けておりませんので、まずは皆様の健康を第一に考え、この困難を乗り越えましょう。そして、落ち着きましたら、出身大学のお酒を囲みながら懐かしい話に盛り上がりましょう。お待ちしております！

連絡先

松崎 正敏 電話 0172-39-3804 E-mail mma@hirosaki-u.ac.jp

栗田 大輔 電話 0172-39-3592 E-mail dkurita@hirosaki-u.ac.jp



事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年6月1日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ (<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>) からダウンロードできます。

白神どうぶつ讃歌

白神の森で出あった動物たち

弘前大学名誉教授 小原 良孝 著

弘前大学出版会
新刊のご案内

3月10日発行!



本書は日本で最初に世界自然遺産に指定された白神山地の動物たちを写真とその解説で紹介するものです。

掲載されている写真は、弘前大学を定年退職した筆者が3年半ほど白神山地に通い撮り溜めたものの一部です。ごく普通に見られる動物（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類など57種）ばかりですが、一動物学者の目で見た解説のほか動物たちの生活痕・足跡などのフィールドサインも盛り込まれており、白神山地の動物たちの息吹を感じていただけるでしょう。

2023年（令和5年）は白神山地が世界自然遺産に登録されてから30年となります。この本を手にとりぜひ白神の森を訪ねてみてください！



◆目次

- 白神の森で出あった脊椎動物（哺乳類と鳥類）
- 白神の森で出あった脊椎動物（爬虫類と両生類）
- 白神の森で出あった無脊椎動物（クモガタ類）
- 白神の森で出あった無脊椎動物（昆虫類）
- フィールドサイン（食痕・糞・巣などの生活痕）
- フィールドサイン（雪上の足跡）
- あとがき参考文献 / URL
- 白神の森で出あった脊椎動物一覧
- 白神の森で出あった無脊椎動物一覧



「白神どうぶつ讃歌 白神の森で出あった動物たち」定価 3520円（税込）

弘前大学生協のほか一般の書店でもお求めいただけます。



令和5－6年度総会開催のお知らせ

令和5－6年度の総会につきまして、コロナ禍ということもあり、開催時期や開催場所、実施の方法も含め、検討しております。現段階（2023年3月末時点）では、下記日程での開催を予定しております。

日時：2023年7月1日（土） 午後3時

場所：弘前大学農学生命科学部 203講義室（なお、情報交換会等は実施しない）

今後の新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンライン開催、開催の中止も含め検討する可能性があります。

開催日程の詳細が正式決定した際には、（総会開催が困難となった場合も含め）、弘前大学農学生命科学部同窓会ホームページ（<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）で告知させていただきます（スマートフォンなどご利用の方は、下記のQRコードからも同窓会ホームページにアクセスできます）。

弘前大学農学生命科学部
同窓会事務局



訃報

（2022年度中に事務局に連絡があった方）

齋藤健一 様（名誉教授 育種学研究室）

相馬英三 様（農学科 昭和31年卒）

原田順厚 様（農学科 昭和31年卒）

岩井邦彦 様（農学科 昭和32年卒）

真崎芳朗 様（農学科 昭和32年卒）

山口清美 様（農学科 昭和37年卒）

前田勝義 様（農学科 昭和39年卒）

高山信義 様（園芸学科 昭和49年卒）

藤田博己 様（園芸学科 昭和51年卒）

加納 透 様（園芸学科 昭和53年卒）

上記会員のご逝去の報が届きました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい（<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）